

校長のひとり言



期待

3月になり肌寒い中にも暖かさを増す日差しに、少しずつ春の訪れを感じるようになりました。

通信制課程114名、定時制課程61名の卒業生の皆さん、宍道高校で学び経験した年数はそれぞれですが、晴れて卒業の日を迎えられました。卒業おめでとう。心よりお慶び申し上げます。これから進む職場や進学先で活躍されることをお祈り申し上げます。

在校生の皆さんは、卒業生の姿を見て、多くの元気や勇気、何よりも宍道高校を誇りに思えたのではないのでしょうか。日々の努力の積み重ねにより、大きく成長した先輩方の勇姿にたくさんの刺激を受けたことと思います。次は在校生である皆さんが、新しい歴史、伝統、校風を築いていく立場です。そのためには、卒業生から学び得たものを心の糧として、また、この1年間を振り返り、多くのことに挑戦するなど充実した学校生活が送れるよう取り組んでいこう。

島根県教育委員会は、平成26年度、5年間の教育方針を定めた第2期「しまね教育ビジョン21」を策定し、「島根を愛し 世界を志す 心豊かな人づくり」を教育理念とし、教育目標としては、「向かっていく学力」、「広がっていく社会力」、「高まっていく人間力」を掲げています。

その一つである、「広がっていく社会力」の具体的な事業や取組(施策)の中には「しまねのふるまい」の推進があります。平成22年度からそれぞれの立場(保・幼・小・中・高・大・社会人・県民)として身につけておくべき「礼儀作法、挨拶、しぐさ、モラル、ルール、しつけ、道徳、倫理観、生活行動、生活動作、思いやり」などを「ふるまい」と総称し、「ふるまい」を身につけ、自立して生きる力や人と共に生きる力を育成することを目指して継続的に取り組んでいます。

先日のある記事に、大人より子どもの方が、明るく元気な挨拶をする。思いやりをもって友達と仲良くする。校則や社会のルールを守ることなどがしっかり身につけているという内容でした。子どもより大人が社会人としてしっかり身につけていなければならない「ふるまい」が、うまく「ふるまえない」現実があるようです。一例として、ごみのポイ捨て。約束の時間には遅れる。まともな挨拶はできない。乱暴な言葉使い。敬語が使えない。相手を傷つけるなど思いやりのない言動。その場にそぐわない言動(言葉遣い、服装、髪色など)、自分勝手な言動など、具体的な話として取り上げられていました。

何とかしなければなりません。自分の「ふるまい」について成長・向上させるためには、理屈では理解できても、行動が伴わないと意味がありません。そこで、自分にはできているのか。他者には自分がどのように映っているのか、どのように見られているのか。振り返り、反省・改善することが重要です。自分自身を見ることのできるもう一人の自分がいたら助かります。また、自分が見える鏡があれば助かります。しかし、現実には困難です。解決策は、他者からの教えや助言を聞き入れる。他者の「ふるまい」を見て、自分のふるまいを直すことが現実的のようです。(学習する)

就職や進学により、新しい共働・集団の中で生活していく卒業生の皆さん。また、学校という学び場で集団生活を続ける在校生の皆さん。他者に不愉快な思いをさせない、他者から信頼され、愛され、社会の中で共に働き共に学ぶ生活が充実したものになるよう、もう一度「ふるまい」について考え実践してみてください。魅力ある大人・社会人として元気で活躍されることを期待しています。